

京都教区時報

小教区の頁一長 浜 教会
特 集—社会と共に歩む教会アンケート報告

第82号

発行所

京都市左京区仁王門通新高倉東入

京都カトリック教理センター

広報室 (Tel761-9095)

編集責任者 村上透磨

編集部 教理センター

田中司教認可

クリスマスのおとずれ

(フィリピンのため強く)
ワー・カーソン

(フィリピンのクリスマス・カード)

「クリスマスのおとずれ」

クリスマスは、神のみ子が人となってお生まれになったことをお祝いする日だと、誰でも知っています。そのお陰で、罪の暗い世界から、人となられた神のみ子の十字架と復活による救いの言葉を私たちが受けて、神の光の明るい世界へ呼びもとされました。自分の生命をかけた苦しみを通して人を救うという

マスを迎える態度も、おのずから深い愛を生きたことになるでしょう。小さく、貧しく、力ない幼児になられたイエズスは、私たちの社会の中で隅に押しやられて、貧しく、小さく、力なく生きておられる人々の姿をとられたのです。聖マルチノの伝説にもそんなのがあります。聖マルチノが軍人として馬に乗って町を通っていたとき、ほろをまとって寒さにふるえながら道端にうずくまっていた貧しい子供を見かけました。聖人は、自分の着ていた軍人のマントを半分に切ってその子供に着せました。夜になると、聖マルチノの夢枕に、子供のイエズスがその半分のマントを着て立っておられたというお話です。京都教区のビジョンの「弱い立場の人々を大切にしよう」というのは、特にクリスマスに適切なことではないでしょうか。

私たちは、この豊かな日本でクリスマスを迎え、クリスマスのパーティーや、ケーキや、プレゼントなど楽しみにしています。しかし、同じアジアの国に住む人々の多くは、食べる物ばかりでなく、着るものも充分になく、病気になることも薬も買えないのです。今年も、多くの方々がウォーカーソンに協力しました。自分の努力を人の為に献げることはイエズスに従うことです。今年には特に、フィリピンの人々の健康を守る為に使われることは意義深いことと思います。



教区短信



- ▽11月21日 松坂堅信 献堂式(津)
- 23日 「京都教区創立記念日」
- 教区修女連の集い(唐崎)
- ▽11月22日 12月24日 名画「マドンナ展」 大津・木下美術館
- (NHK主催)
- ▽11月29日 12月8日 司教協議会総会
- ▽12月5日 河原町
- ▽12月12日 青谷堅信
- ▽12月13日 諸宗教委定例会(東京)
- ▽12月14日 教理センター理事会
- ▽12月19日 宮津晩星幼の新園舎祝別式
- ▽12月20日 教区付邦人司祭月例会
- ▽12月24日 クリスマス・イブ
- ▽12月25日 主キリストご降誕祭
- 一九八三年
- ▽1月1日 正月元旦、世界平和祈禱日
- ▽1月4日 教区内司祭、修道士による新年ミサと懇親会

第4回 ウォーカソン 11日3日 フィリピンに鍼師を



11月3日秋晴れ 神様ありがとう。

8時過ぎ、シスター達受付開始

ほとんど人々がつかれます。

10時過ぎ開会式、「鍼師をフィリピンへ送ろう」と集まりました参加者、450名(名簿登録者)

その背後には約三千八百名のスポンサーがついているのです。そして私達の歩みの向うにはフィリピンの病める友が待っているのです。私達は元気に、この美しい自然の中を歩けます。然し、世界には、病いと飢えのために動けない人もいます。その人々のために歩きます。

コースは加茂川西岸を御園橋まで、そこから折り返し、出町柳まで十二キロ。途中、出町橋、北大路橋、御園橋、北大路東にチェックポイントがあります。

ハイキングと募金をかねたウォーカソンは、楽しみながら人を助ける事が出来るのです。南信協、壮年、婦人部の人々の協力があり、ゴールは高校生グループの楽しいレクリエーションによる幕おろしです。この終幕を飾る彼等の姿は、未来の大きな希望です。

四年連続して参加して下さった沢山の

人々の中で、一年目、お父さんの背に負われて参加してくれたお子さんが今年自分の足で完歩してくれました。だんだん歴史を感じはじめています。

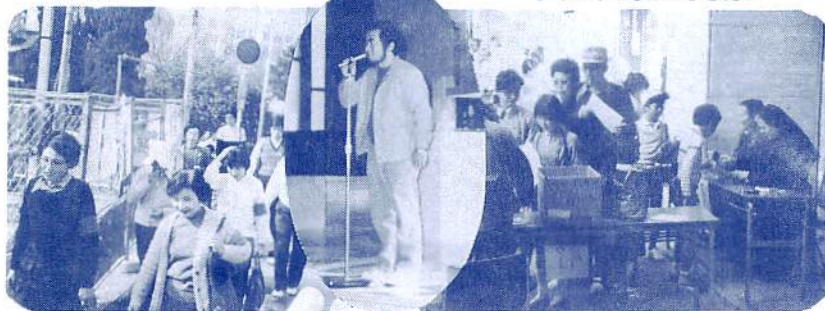
更に特筆すべき事 昨年松葉杖をついて参加してくれた子羊会員、久保田健一君は今年には杖なしで一区間を歩いてくれました。何んと貴重な歩みでしょう。

親子連れ、孫連れ、グループぐるみ、又三重、奈良からも参加者がありました。

受付で
よくいらっしました！

御注意！

出発！
げんきて！



チェックポイント

健ちゃん
がんばって！

ごはんですよ
おいしい！



ハンコください。



階段は狭い

ついた！
うれしい！



ありがとう
みなさま！



もう少し
がんばって！

感想文、殆んど子供達でしたが、ちょっとしんどかったが楽しかった、又来年も参加したい。という感想に励まされて来年も計画します。よろしく。

参加者、スポンサーに感謝するところにも、協力くださった、南信協、修女連、子羊会、高校生の方々に感謝致します。

西陣七五周年感謝の

ミサと聖体行列

西陣教会(主任浅田師)では去る十月七日、七五周年の一環として、浅田師、ワレ師、村上(マ)師、高山師等の共同司式ミサの後、教会の境内を回り、聖体行列を行い、四分の三世紀に及ぶ、神の御加護を感謝し、新しい未来への祝福を祈り求めた。



聖体行列

隣接教会運動会

子羊会を交えて

今年も西院・衣笠・西陣・桂・長岡・北白川・高野の七教会で第八回の隣接教会運動会が十月十日に行われました。暑くも寒くもない天気にくぐまれ、九時から野外ミサその後五色のチームカラーに分かれて競技が開始されました。なんといっても力が入ったのは綱引き、各チーム総当たりのため、四回も綱を引きふらふらになつた人も多かったようです。リレーは子選まであり、総立ちで応援しました。子羊会の方にも参加いただけよう種目を考えましたが充分とはいえず心残りでしたが、進んで参加してくださった競技ではおしみなない拍手が送られました。競技結果は何と千点以上を獲得した西陣教会が連続優勝、二位は衣笠教会でした。快よい疲れの中で来年の再会を約束しました。

(高野教会 松本浩二)

安濃聖母の家

(軽費老人ホームA型)

社会福祉法人聖フランシスコ会

切支丹遺物収束家とも知られ、津教会信徒である伊勢谷医師はこの度、三重県安芸郡安濃町大字妙法寺に軽費老人ホームを設立、四月一日落成、十四日開所した。収容人員五〇名、鉄筋二階建ての美しい建物である。この家は老人福祉法の理念に基づいた老人福祉施設で、家庭環境・

住宅事情等の理由により、居宅における生活の困難な者が、低額な利用料により健康で明るい平和な生活を送れる事を目的としている。院内中央には祭壇があり、日曜日には院長運転車で、津教会にミサに出かける。生活の心得として、互いの思いやりと慎ましき、各自の健康への心がけと、院内の規律と整頓といったものが主なもの様に見受けられる。自由を重んじながら規律を大切にすると云う精神なのであろうか。今まで、この様な

原稿を書かれた
手書きの自由人

久保田健一郎さん
の感想文(子羊会)

十月十日、ノートルダムで七教会合同運動会が開かれ、僕も出席しました。

綱引き、玉入れ、三人リレーをやりました。三人リレーは、僕の足と家さんともう一人川原さんと三人で足を結んで走りました。皆、走りが早いので僕の足は思うように走れませんでした。

その日は、天気がよくしんどくはありませんでした。

今までに厳しい訓練をつづけて、三・四年になります。鉄棒にぶらさがったり、歩く練習をしました。

夏は暑くて体がしんどくなりました。それでも僕は頑張り続けました。

やっと秋になって、ようやく歩けるようになった僕は、綱引きをやらせられると、皆に引っぱられていような気持ちです。青空の中で、皆が元気いっぱい走っている姿を見ていると、「僕も走れたらよいのに」と思いました。

(子羊会 久保田健一郎)

施設は、多くの場合、聖職者や、修道会によってたてられるものが多かったが、今回、信徒の努力によって建てられたという事は特筆に値するものと思われる。

コーヒー一杯でコーヒーの木を

インドのボイズ・タウン

フィリピンにしろ、インドにしろ、アジアにおける貧しさと戦っている人々を多くかかえている国において、貧しさと教育と云う事は密接な関わりをもっている様に思われる。

ジョー・ホームマン(Srホームマンの令兄)

は、一九六五年英国での教師をやめ、南インド・ムドラーの南一五マイルの所に、数名の浮浪児を集め養鶏場を作り、六ヶ月後には日に六〇〇〜六五〇の卵を生産する大養鶏場を作った。それから一九六六年ティルマンガランのそばの、半砂漠三二エーカーを買い、最初のボイズタウンを作り、その後八つのボイズタウンが出来上っている。又ガールズタウンやチルドレンホーム等も続々と建設されている。こうして貧しい子供たちを養成し社会に役立つ人間を育て上げる事を目的として働いている。更にこれからのタウンは、近隣に住む住民たちにも、手芸品工場、井戸開発による村の開発の中心として、大いに役立っている。その働きは非常に多く一々説明する事が出来ませんが、今ここに私たちとして協力出来そうな事を左記に説明しておきたいと思う。

— 記 —

▽二五〇〇円で一週間その土地でボイズタウン診療所を働かせる。

▽二五〇〇円で一人の少年を一年間育てられる。(但し両替のため三万円お願ひする)

▽五〇〇〇円で子牛一頭が買える。

▽一〇〇〇円でコナツの木が植えられる。
▽五〇〇円でコーヒーの木が植えられる。
▽二五〇円でバナナの木が植えられる。
私たちの一杯のコーヒー分でコーヒーの木が植えられるのです。

御協力下さる方は、藤森聖母女学院
シスターホームにおたずね下さい。
聖母女学院 電話六四一—〇五〇七

司教の足どり

9月～11月



9月
16日 ウイチタ・ヨゼフ管区長と面談
17日 (他)京都教区カリタス会理事会
18日 庭野平和財団代表来訪
19日 (日)スカウト・サンデー(大津)
MM管区長と面談
20日 教区付邦人司祭月例会。カロン
ヨゼフ管区長来訪。カトリック研
代表来訪
21日 東京神学院司教委
22日 右に同じ。白柳大司教、駐日バ
チカン大使訪問
23 24 石神司教と面談。信徒使徒職全
国会議(八王子)
25日 Srs佐藤、小野、百岡(ヌベール
会)・豊願金祝ミサ(藤森)
26日 (日)大和高田堅信ミサ。聖フランシ
スコA聖誕800年祭(関西地区大
阪北浜)

28日 教区内司祭修道士研修反省会。
尻枝師兄弟来訪。働く人と面談。
29日 韓国センター訪問。京都商工会
議所代表来訪。九条ミサ。
30日 岩滝町役場代表と面談。
10月
1日 阿濃聖母の家(老人ホーム)訪
問。津教会、同保育園訪問。
2日 オープンステイ訪問
3日 (日)河原町ミサ。衣笠墓地委。
4日 司教協議機構検討会。
5日 諸宗教WCRP(法輪閣)。
6日 諸宗教定例会(上智)、神道研究
合同会議(上智)。
7日 カノッサ会員来訪。
8日 京都商工会創立100年式典。
9日 南都・浄瑠璃寺住職と対談(あ
けほの)。
11日 アウィラの聖テレジア400年祭ミ
サ(京都女子カメル)。教区付
邦人司祭懇話会MMH。15日ま
で。

17日 (日)伊勢堅信。伊勢墓地詣。
OP総長(今出川)来訪。
18日 ウィアートル親睦会。
19 30 FABC第三回総会出席(タイ
サンフラン)
31日 (日)伏見堅信。
11月
1日 諸聖人。司祭評定例会。比島事
情研究会(ルカス師)。
2日 諸死者。啓光学園25周年。
3日 ウォーカソン。恵美師(諸宗教)
と面談。

4日 東京神学院司教委。
5日 右に同じ。SrI訪問(諸宗教)。
7日 (日)河原町ミサ。ND女学院30周年
(京都公会館)。
8 9 司教協議機構検討会。
11日 岡部OPミサ。幼七五三。Y氏。
12日 NHK、電通代表来訪。
13日 こひつじの苑ミサ。
14日 (日)岡部ミサ。大日山合同墓参。
15日 聖書週間行事(朗読コンテスト、
書道展、講演(山本七平氏))
(希望の家バザー)。
15日 教区付邦人司祭月例会。

初的女子修道者議長を囲んで
京都教区内修道会総長、管区長会議が
去る十一月五日、京都カトリック会館で
行われた。同会議は毎年4、11月二回開
かれていたが、カロンドレッド聖ヨゼフ
女子修道会管区長、マリー・スミス修道
女を議長選出後初の会議となった。
臨席の田中司教から先頃出席されたア
ジア司教会議の報告。教会をベトナム難
民のために開放することになった彦根小
教区(クレッチャ師)の報告をメリノール
宣教会ラッキー師が、御所難民センター
(カーティ師)の近況をマリスタ会のウイ
ックス師が伝えられた。教会としても、
修道会共同体としても、貧しい人々の側
に立つてキリストの証しをしてゆくこと
を申しあわせて解散。

喜びを共に、創立記念日を祝して
ノートルダム女学院

田中司教をはじめ、旧職員であった村
上真理雄、岡部師の外司祭3名、来賓、
同窓生、在校生ならびに父兄方約一七〇
〇余を、京都公会館に集めて十一月七日、
ノートルダム女学院は創立30周年の記念
式典を行った。先づ司教司式のもと5司
祭によるミサが捧げられ神の加護を感謝
した。続いて、今井美沙子氏(めだかの
列島の著者)の講演(私の少女時代)、同
学院卒業生井上三千子さん(京舞家元後
継者)他数名(同学院卒業生)による美し
い京舞が披露され、喜びのうちに三時
間余にわたる意義ある式典の幕を閉じた。

京都教区信徒協議会

11月14日(日)、草津教会(滋賀)で京都
教区信徒協議会が開催された。席
上九月東京での全国信徒使徒職委員会に
参加した三俣氏の報告、ビジョン実行と
信徒協との関係、その他についての種々
意見の交換がなされ、最後に次年度の会
長ブロックを京都北部と決定した。当日
出席の各ブロック代表は次の通り。
(三重)藤井、渡部(奈良)若井(滋賀)
井上(京都北)梅原(京都南)奥本。
希望の家バザー 11月14日(日)
秋晴れの中で盛大に開催された。中で
も韓国の民族舞踊が素晴らしく、深い感
動を呼び起こした。多くの人々の色んな
形で御厚意や青年男女の働き、当日御
来場下さいました方々に深く感謝し、御
礼申し上げます。

昭和五十七年十一月十五日 現在

国内	活動目的と対象	方法	グループ又は個人	期間	活動開始年月日	摘要	所属名
小グループの懇話会（文化と信仰の分ち合い） 説教、ビジョンの解説 ボーイ・スカウト運動のリーダーの指導 重度身体障害者介護 老人ホーム「健光園」 ガール・スカウト、青少年の育成 病者訪問 バザー収益の一部を施設へ寄付（少年院、養老院） 重度身体障害者在宅公設要理教授 神の國老人ホーム応援 特別養護老人ホーム「神の國」訪問 精薄児の家庭訪問 老人ホーム訪問 在宅老人、病人訪問 晩星高校存続の運動 晩星幼稚園建設に協力 日本在住ベトナム難民の日本語習得の援助 課外要理研究受洗希望者、教会に行きたい母子の爲） 信徒児童の養成（信徒として証となるため） 聖親会（信者又はキリスト教に関心ある人） 断酒会（岩倉病院） 身体障害者 長島愛生園 手話学習会 希望の家諸活動老人クラブ、東九条改善対策委員会、その他 在宅老人訪問、介助、話し相手（二〜三人集って） アル中断酒道場、退院者援助、家庭訪問 精神病患者病院訪問と退院者訪問 釜ヶ崎主に単身労働者と65才以上の老人対象の食堂	聖書に基いた分ち合い 日曜日の説教で 話し合い 家庭訪問 訪問 活動の場所を提供 訪問 家庭訪問 要請に応じて 介助、清掃、慰安 援助、指導 訪問 訪問 募金 司祭館での共同生活 信仰の基礎づくり 似・高学年別に話と祈りを キリスト教価値観について 集会 施設訪問 施設訪問 桂教会で 事務、老人訪問、児童館手伝 家庭訪問 定例集会、話し相手と生活 品援助等 訪問、退院者と文通、訪問 衣類修理（店）、食堂の手伝い	司祭と信徒 司祭 司祭（育成会の会長として） 個人 マリヤ会 婦人、青年のリーダー 婦人会 カテキスタ 信徒会 信者会 信者会 信者有志、婦人会ボランティアグループ 教会 主任司祭、信者一同 幼稚園建設委員会 ボランティアグループ 個人 グループ 個人 個人 個人とグループ グループ 個人 個人 個人 個人 個人	年三回（六週間 続けて） 月一回 月一回 月一回 月一回 月一回 週一回 毎月 週一回 月数回 至昭和五六年五月 七ヶ月 週一回 月一回 週一回 月一回 週一回 月一回 週一回 月一回 各週一回、随時 各週一回、随時 各週一回、随時 各週一回、随時 各週一回	昭和五五年 昭和五七年一月 十年前 昭和五七年四月二〇日 昭和五一年一月 三年前 三年前 数年前 昭和五五年九月 昭和五七年 昭和五五年四月 昭和五〇年四月 老人ホーム開設以来 昭和五七年六月 昭和五七年五月 昭和五七年九月一三日 昭和五七年九月一日 十年前	四旬節、待降節、お盆 一月、二月は週六回 第二水曜日 二回実施、今後計画中 他に、心のともしび配布、訪問常時行っている 関心のある児童に積極的に参加を呼びかけたい 教育問題、家庭教育 婦人会のペン習字教室へ月二回 家庭訪問は月二、三回 他に路上での話し相手	西院教会 " " " " " 宇治教会 " " 田辺教会 結華教会 " 富津教会 " 彦根教会 ノートルダム 教育修道女会 "	

活動目的と対象	方法	グループ又は個人	期間	活動開始年月日	摘要	所属名
老人ホーム訪問「神の国」「すみぞめ」文化祭、チャリティーセール 点字(絵本など)、手話 敬老会(七〇才以上のお年寄) 一〇フット運動の映画会「人間をかえせ」「子言」 平和アビールの継続 在宅老人訪問。教会主催地域敬老会 アルコール中毒の救済 施設のための献金、ふきん、肌着製作 身体不自由者のミサ送迎 ビジョン達成のための小教区目標設定 結婚講座	外国と国内に分けるクラブで 百名招待(出席者五〇名) 信者及びその関係者 家庭訪問 パーティー招待 AA, AL, ANON	奉仕部 ビンセンジオ会主 催・各会協会 神父 特別奉仕者 信者会 個人 婦人会グループ 個人、子羊会 信者会 ME経験者	月一回 年一回 週一回 月一回 年二・三回	二十年前 	各地域社会に「アビール」を、 に活動している一教会 勉強会 積出し 前向きに新しい事を考 慮準備中 運送料金捻出に苦慮 信者有志が材料を無料 提供 郵便料金	聖母女学院 " 九条教会 " 草津教会 " " " 桂教会 小山教会 西院教会 高野教会 西陣教会 宇治教会 " 亀岡教会 田辺教会 " " 精華教会 宮津教会 " " 富雄教会 四日市教会
インドの教育支援。カリタスジャパン。古切手集め。 バザー開催。アフ리카、ネパールへの援助 ヘルプバンクラデシユの組織とのかわり アジア・アフ리카難民救援 インドの児童の里親 インドの子供たちへの衣料寄付 ワイリピン(ブキドシ、マニラ、パギオ、タイ(ホンタク)へ中古衣料寄付。 カンボジア難民のための募金。その他、募金活動。 インドの教育支援 インド友愛の手。里親制度加入 インド友愛の手援助 海外医療協力 その他随所献金 古切手集取。衣類収集。 アフ리카難民救援(募金を呼びかける) ペルーの最も貧しい地方の教会を援助 ポーランド援助 フィリピンの神学生を援助 四旬節の献金 インドの貧困家庭児童への援助 ベトナム難民救済	占着、寄贈品、食堂の売上 現地の民芸品を販売 廃品回収 子供一人に付二千円 スタイバンク師呼びかけ 船便にて郵送(各10kg宛) うどん販売 一人に付二千円援助を三名 不定期献金 古切手収集 愛の箱設置。中古衣料販売 供出 街頭募金 街頭募金。バザー 廃品回収 年会費を集めている 金銭援助 街頭募金、六回	ヨゼフ会中心 信者有志 教会有志 信徒一同 小教区内 婦人三名 信徒会 中・高生サークル 信徒会。婦人部 信者会 ボランティアグループ 婦人会 " 教会 ノートルダム修道院 信徒会	二ヶ月に一回 月一回 四季に一度 月一回 月一回 月一回 月一回 月一回 月一回 年一回 年一回 週一回 月一回 年二・三回	昭和五四年四月 昭和五四年六月 昭和五四年七月 昭和五七年四月 昭和五六年十月二七日 二年目 昭和五七年一月 昭和五七年 昭和五五年 昭和五〇年四月 昭和五六年十二月 昭和五七年六月 昭和五六年十二月 昭和五五年 昭和五六年 昭和五五年九月	地獄社会に「アビール」を、 に活動している一教会 勉強会 積出し 前向きに新しい事を考 慮準備中 運送料金捻出に苦慮 信者有志が材料を無料 提供 郵便料金 カリタスジャパンへ送金 主任神父より送金 送金 送金 ノートルダム修道会を 通して 御所ベトナムハウス	聖母女学院 " 九条教会 " 草津教会 " " " 桂教会 小山教会 西院教会 高野教会 西陣教会 宇治教会 " 亀岡教会 田辺教会 " " 精華教会 宮津教会 " " 富雄教会 四日市教会

◎御報告いただいたものでまた未記載分は次回に報告いたします。尚編集部では、続けて御報告をお待ちしております。尚御報告いただいたものうち、いくつかの活動について今後よりくわしく掲載したいと思いますが、みなさまも直接に問い合わせられることもおすすしめします。

啓光学園(男子)

中学校 90名
入学試験日 3月3日(木)
高等学校 360名
サビエンス・コース、クリア・コース
入学試験日 2月15日(火)
16日(水)

〒573 枚方市禁野本町1丁目13-21
TEL 0720(48) 0521(代)

ノートルダム女学院
◆生徒募集◆

高等学校 定員225名
入学試験日 2月17日(木)
中学校 定員135名
入学試験日 3月4日(金)

〒606 京都市左京区鹿ヶ谷桜谷町110
TEL 075(771)0570,0575

メリノール女子学院
中・高等学校

入学試験日
中学 1月16日(月)
高校 2月7日(月)

三重県四日市市平尾町2800
TEL (0593) 26-0067

学校法人聖カタリナ学園
聖家族女子高等学校

普通科
衛生看護科

推薦入学制度あります。

〒622 京都府船井郡園部町美園町1-78
TEL (07716) 2-0163

子どもたちに
カトリック教育を!

セントヨゼフ
女子学園
中・高等学校

入学試験日
中学 1月16日(日)
高校 2月10日(木)

三重県津市大字半田1330
TEL (0592) 27-6465



クリスマスおめでとうございます

暁星女子高等学校

募集人員 普通科約155名(女子)
出願期間 58年2月8日(火)~
2月15日(火)

試験日 58年2月17日(木)

試験科目 Aコース

推薦書、作文

Bコース

基礎テスト(漢字
書取り、計算問題、
英単語)

寮完備

○希望者全員入室可能

○舎監が、きめこまかな指導をします。

○寮の中では英会話などの指導をうけることができます。

進学Aコースは推薦制度による
本校独自の奨学生制度あり

〒626 京都府宮津市柳縄手303
TEL 07722-2-2560

日星高等学校

★推せん制・奨学制・寮完備★
—— 1983 生徒募集 ——

キリストの教えに基づいた教育
宗教性・国際性・福祉性に生きる

普通科 135名

英語コース 20名

衛生看護科 45名

〒624 舞鶴市上安久381番地
TEL (0773) 75-0452

エスコラビオス修道会
による男子のみの

中・高等学校

中学入学検定日 1月23日(日)

8時40分集合 9時試験開始

高校入学検定日 2月5日(日)

8時30分集合 9時試験開始

三重県四日市市追分1-9-34

海星中・高等学校

TEL 0593(45)0036

学校法人 聖母女学院

募集人員
聖母女学院短期大学

家政学科 1回生160名
児童教育学科 1回生160名

聖母学院 幼稚園

1年保育(若干名)2年保育(約100名)
3年保育(25名)
(ただし10月1日~15日)

同 小学校
1年生(男・女) 約160名

同 中学校
1年生(女)約160名(うち外部約70名)

同 高等学校
1年生(女)約160名(うち外部約20名)

詳細は下記にお電話下さい。

〒612 京都市伏見区深草田谷町1
TEL 075(641) 0507(学院)
TEL 075(643) 6781(短大)

聖書週間 二つの催し

聖書を書く (書道展)

聖書を読む (朗読コンテスト)

▽主催 聖書センター

▽期 日 十一月十四日 十時より

▽場所 河原町カトリック会館

▽書道出品数 五〇名 特別出品四名

▽朗読者 中学生以下 一七名

▽尚入賞は以下の通り。



コンテスト風景

書道
コンテスト
入賞者名簿聖書朗読
コンテスト
入賞者名簿

神の園災害復旧工事援助への感謝

去る八月の水害において多大の被害を受けた神の園復旧のため援助を頼ったところ、一〇、四八二、九〇八円の援助を得た。皆様の力強い支援に、心から感謝している。復旧工事も完了し、再び安心して御老人たちも生活できるようになった。

神の園理事長 田中健一司教

施設長 し・スラインバック師

アピラの聖テレジア四百年祭

女性として唯一の教会博士である、アピラのテレジア帰天四〇〇年祭が、北山女子カメルル会で、九月十一日まで、

聖霊の癒しを求めて

三日間にわたって行われた。ミサ、聖務日課に参加し、祈りの中に共に祈った。ミサ後、普段禁城となっている修道院が開放され、敬虔な気持ちにひたった。

11月7日から12日まで司祭のカリスマ的熱心会が三田カトリック教会(大阪教区)で行われた。また、11月11日は大阪北浜教会ではベコス・コミュニティのダビデ大修道院長、ロー神父の指導のもとにミサと癒しの祈りが行われた。100人以上の司祭による病者への按手は、病者ばかりでなく参列した一般信者それらの信仰をも深めた。

カンボジア難民のための募金活動

聖母女学院ではカンボジア難民救援会に協力して、四条大橋で次の日程で午後二時～五時まで募金活動を行います。

御協力をお願いします。

▽12月11日(日) 12日(日) 19日(日)

21日(火) 23日(木)

「社会とともに歩む教会」勉強会

12月12日「労働について」ウエックハウス師
1月19日「援助について」安藤勇師

2月13日「人間の社会的次元」ウエックハウス

▽場所 河原町カトリック会館ホール

▽時間 午後一時～四時

▽主催 C I C

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄

(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23

電話 (075) 312-7829

(075) 771-7577

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒

タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入
電話 (221) 0976-7

信徒使徒職養成コース

基礎コース

◇1月13日(金) PM 5時より

1月16日(月) PM

▽場所 北海道苫小牧メリノールセ

ンター

▽会 費 一五、〇〇〇円

▽問合せ先 京都カトリック教理センタ

司祭の平均52才と教区大会のスライドに出ている。司祭の老令化、後継者難が、司祭不在の教会をつくる因の一つと言われる。司祭の常住しない教会の我々にとっては、信者一人一人の信仰の問い直しをさせられているように捉えるべきだと思っている。

信者の責任、キリスト教としての証しの機と、私達は反省をまじえて考えている。昭和51年、千六百円余の残金の通帳と共に、司祭の常住しない教会となったその日、それが、突然に近い状態で起った。教会の維持・管理・運営などが負いかぶさって来た。教会を守ろうの熱意で活動した、働いた、走った、確かによく



信仰の問い直し はばたく信仰

頑張ったと、評価もされた。そして、ふつと、足元をみたとき、秘蹟に生きていたか。自分の信仰の霊性、キリスト者共同体の教会であつたらうか。子供の教育はと、教会現象面のみを見すぎていたきらいが強すぎたと思っている。乳幼児の子供たちは、小学校低学年生へと成長してきている。子供たちは、教えたように守り、成長するのではなく、親たちが行っているように信仰の姿を見習って成長するとすれば、私達の共同体、真のキリスト教の信仰とは、使徒感とはと学びなおすべきだと、息吹は静かに芽ばえて来ている。すこしずつ脱皮へと脈うっているのとみるのは欲目だろうか。

長浜教会



この子等とともに

明治のはじめ、丘蒸気が文明開化のシンボルとして東海道を走った頃、ここ長浜では、北陸と関西を結ぶ拠点として、新橋駅そっくりの長浜・ステーションが、いはやく建てられ、鉄道連絡船が就航して、湖上交通の要ともなったことは、あまり知られておりません。しかし、その昔、戦国の武將が、湖北を舞台に天下分け目の攻防戦を繰りひろげ、のち豊臣秀吉の長浜城築城によって、長浜がまちとして繁栄をみたことは、テレビや歴史物

語でみなさんよくご存知の通りです。人口約六万人、戦国のなごりを留める神社仏閣の多いのも特徴で、こんな小さな都市でも、寺院の数一二〇余もあり、神事や仏教の濃い長浜市であります。さて長浜教会の成り立ちには、サンフランシスコ講和条約締結の年、昭和26年に廻ります。当時彦根教会の主任司祭でしなメリノール会のスミス神父様が乗り込んでこられ、要理研究の足がかりを作られました。そしてあちこち借家をしな

がら集り続け、翌年のクリスマスには、はやくも第一号信者が三人も誕生し、教会のないままに映画会や講演会など、彦根の信者さんたちの応援を得ながらの活動が続けられていました。そして、これらの活動をよく見られたのか、天の御父は、素晴らしい贈り物を下さいました。それが、町の中心部にがっしりそびえる、元「黒壁銀行」と呼ばれていた現在の長浜教会で、昭和28年の出来事です。

こうして長浜教会は、シャンバリス神父様を初代主任司祭として迎え、教会活動の基礎ができ、町での知名度も増して湖北の一隅ではありますが、世の光としての一灯を点じる存在となつて今日に至りました。しかしこの間、順風に帆を挙げてばかりいられない厳しい現実にも見舞われています。

歴代の主任司祭、シスター、修道士の方々の被護のもとにあつた小島同様の私たち信者にとつて、突然主任司祭の常駐されない教会となつた昭和51年4月を忘れることはできません。自立を余儀なくされた当時の現状は、社会変革の余波を受けて、家族ぐるみの信者の転出が続発し、極度に信者数が減り、一体どうなるかと絶望感と不安に打ちのめされていた時期でした。神父様の居られない空虚な教会で、主だった数名の信者が集り、二千円に満たない現金を前にして、途方に暮れ、濃霧の原野にさまよう迷子を導いて下さいと主に祈り求めたものでした。

そして、教会の自主運営のため、残された全ての人が、何らかの役割りを背負っ

て再出発しようと申し合わせ、社会に向つての活動を意識的に進めて五年、今日ようやく一人歩きができるまでに成長してきました。一人よがりや間違ひも多かった中で、ここまで来られたのは、当時彦根教会から主任として毎週来ていた新しいツィンシェット神父様の励ましと新しく就任された田中司教様の度々の長浜教会へのご訪問、教区の神父様方の助言・援助があつたればこそと感謝致して居ります。とりわけ、司教様ご来訪時、久しくなかった洗礼式や、保育園増築の祝別式、納骨部屋完成の祝別式、晩さん会などで接した司教様とのひと時がどれだけ多くの信仰への励みとなつたことでしょうか。

私たちの活動の原動力は、以上の様な過去の試練にあります。そして今は、彦根・長浜の司牧に當って居られるクレッチャー神父様の方針に基づき、司祭のいない新しい教会像を模索しながら、霊的に充実する活動を目指して頑張っている。今日この頃です。

文責 長谷・勝木・武藤





ビジョン推進に望むもの

教会刷新のために望みたいことは、キリスト共同体の見直しを第一に挙げたい。私達は時々、このキリスト共同体の言葉を耳にし、又は口にする。そしてキリスト共同体の一員として自負して居るけれども、果してこの共同体がどれ程、意識的に把握されているのか疑問に思う。つ

もぐらの寝言

「遠いと思っていたけれど、あまり遠くなかった。しんどくなつたときもあったけれど、12km歩いたお金が貧しい人のためになるんだからよかったと思う。来年もやりたいと思う」とは、第4回ウオーカソンに参加した感想集。

神の国に向うウオーカソン

ビジョン具体化

からの一小学生の手記。昭和54年にもぐら編集部一同の小さな善意と熱意で廻り始めた募金運動の南車は、年毎にアジアの兄弟への善意と熱意の同じ小さな南車をふやし続けている。2才から82才までの参加者四五〇名の内訳は一般八五名、信者が三六五名、福音を他の人に伝えようとすると、口で喜

まり私達カトリック者は、主イエズス・キリストのもとに共に同じ体になっているのか、もう一度見直してみる必要がある。「教会憲章」の中で強調されている教会の姿とは、神の民「すなわち神によって集められた信仰者の共同体である。それは信徒も聖職者も、神の民の一員として共通の基本的資格と責任の上に立ち、そして神の前では、皆平等であることを意味する。だから聖職者と信徒は役割の区分はあるけれども、キリスト者として上下では分けられないものであるところから、聖職者は秘跡によって恵みを分配したり、ミサを司式する時は神の代理者であるため、それを身分化してしまい、何か高い身分のものであるという意識が私達にあるのではなからうか。更にこの観点に立

ばしい音づれといっても中々、なるほどと他の人に思われるほどわかってもらえな伝え方は簡単には見つからない。しあわせなら手をたたこう」のうた式に、わかってもらいたかったら態度にあらわすのが早速ではなからうか。つくりあげて

って、キリスト共同体の確立にむかって望まれることは、先ず小教区制度を廃止することである。小教区制度は、古代ローマ帝国から取り入れた世俗的な行政制度を、教会が制度として受け入れたものと云われる。従ってこの制度の中には多分にこの時代の制約があり、現代においては、この小教区制度、つまり主任司祭制度はもう機能を果さなくなったと云える。次に新しい教会のとらえ方は、司牧者(教皇・主教・司祭)は共同体に奉仕するためにあるものであって、そこには権威とか権力という上から押えるものが絶対にあつてはならないのである。しかし、まだ教会の中に、グループ活動組織の中に、依然として主任司祭中心、上下関係組織など、封建社会の後遺症が見受け

い道」と思うかも知れない。しんどい。ことだつてあるだろうけれども、これがイエズスの望まれる道。神の民が求めてゆく道程ならば、お互いにさぞいあい、勇気づけ信仰と熱意の小さな南車をまわし始めようではないか。みんなでつくった京都教区ビジョンは、決してエリートグループのためでも、特定の年令層の人たちのものでもなかったはず。ウオーカソンの参加者のように、幼児から老年まで。天のお父さんと呼べる者すべてが、神の国に向ってイエズスのウオーカソンに従う時、紙に印刷されたビジョンは始めて社会に向けても、教会の内に向けてもはつきりと見えるビジョンとなるだろう。そして遠くも、しんどくもなく、(Y)

られるのではなからうか。私達はもう一度、キリスト共同体を見直して、信徒一人ひとりがキリスト者として十分に奉仕出来るようになりたいものである。(聖書のことば) 愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することが出来るためなのです。キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。—エペソ人への手紙4・15・16—(高野 I・K)



ビジョンについて一言

こんな雲の上の様な事をぶつて、と戸まどい、不満に感じておられる方々に申し上げます。アンケートを「ごらん下さい。すいぶんみなやりはじめているではありませんか。時報をはじめから読みかえして下さい。時報にのっただけですすいぶんすでに実践が始まっているのです。では今さらビジョンなくて不要と云われる方々。でも今迄、無意識にしていた事も意識化される事。同じ方向を取る事で気付いた事のすばらしさ。それに加えてまだまだ足りない事への反省を続けようではありませんか。

この人物記も6回目。今回は教会のヤングに大いに興味、関心をもってインタビューを試みた。徳優子さん21才。関西外語大三回生。大和郡山教会の新求道キリスト共同体、マリッジエンカウンター、の熱心なメンバーの両親に似て、男女青年エンカウンター(SADE)の活発なメンバー。教会学校では中学生のグループリーダー。去年から始められた京都教理センター主催のワイリッピンワークキャンプにも二年連続参加して、日本の教会を外から見ると、インファント教区には、司教・司祭・修道者・一般信徒が一致して、貧困さ・不正に立ち向う姿勢・緊迫感が常にあった。同教区内のあるパイブルクラスを見学した時、無学なみすばらしい老人や井戸端会議に「喧しいおばちゃんたちが、みことばを生き／＼と分かちあい、神の中に生きているのを眼のあたりにし、感動した。また小さい子どもたちでさえ、キリストの御受難が自分にとのように関わっているかを、子どもなりに理解して分かちあっていた光景を忘れることができない。

カトリック高校に在学中、仲のよかった友だちが、熱心なプロテスタントの友人に影響されていったのが今となっては悔まれる。その頃の私は、信仰については何時も守りの態度から抜けきれず、遂にその友人に影響を与えることはできなかった。自分にとって聖書が「一番大事だ」という彼女にすゝめられて聖書をよく読むようになった。現在でこそ大学で青年宗教クラブにも籍を置き、SADEにも関わっているが、つく／＼考えさせられるのは、自分自身の福音化、霊性を深めることが社会の福音化につながること。



徳優子(大和郡山)

社会と共に歩む人物記(6) 社会を歩むクツ 「私の福音化」

「私が見てきた比国、インファント教区には、司教・司祭・修道者・一般信徒が一致して、貧困さ・不正に立ち向う姿勢・緊迫感が常にあった。同教区内のあるパイブルクラスを見学した時、無学なみすばらしい老人や井戸端会議に「喧しいおばちゃんたちが、みことばを生き／＼と分かちあい、神の中に生きているのを眼のあたりにし、感動した。また小さい子どもたちでさえ、キリストの御受難が自分にとのように関わっているかを、子どもなりに理解して分かちあっていた光景を忘れることができない。」



(Y)

「社会と共に歩む人物記(6) 社会を歩むクツ “私の福音化”」

「かちあいができるのだが、大学のゼミ、クラブなどでは自然にそれができない。ゼミやクラブでは、仲間が同じ信仰の土台に立っていないからなどといったし、ええ、そうかも知れないが、そこが私の弱いところ。SADEで、またワークキャンプで会った、一人ひとりが神から招かれ、本当に愛されていることがわかった恵みを、私は出会う人たちに伝えてゆきたい。」

確かに社会に開こうと司教・司祭・修道者の間で努力する姿が見える。しかし、一般信徒のレベルになると、どんなに開いていったらいいのかわからないのではないのか。勿論、私を含めてそういうのだが……共同体の中ではない／＼なことに活発だが、信仰の分かちあいになると急に消極的になる点は私自身反省したい。

私はSADEの活動のほかにRETO RNO(神に帰るの意)のメンバーになっている。この共同体はマリッジエンカウンター、男女青年エンカウンター、メンバーが活躍する、より深い信仰を求めるもの。両エンカウンターで体得した「人に聴く態度を更に深めることにより、自他ともに受け入れ、裸になって神に近づき、帰ってゆくことを目指している。」

「みことばに出会い、それをまわりの人々に分かちあう、また他の人のことばの味わいを、自分の中に深めてゆく。あやまちがある時には共同体で捧げるミサのうちに互いを許し、受け入れてゆく。こうしたキリスト者の個々の福音化が進めば、自分を他に、社会に開けはなっていくことが、そうむづかしいことではないと信じる」

「童顔ながら、社会の福音化の核心に触れた話になると、前髪の奥の微笑を絶やさない眼にきびしさが光る。やっぱり彼女自身が自分の福音化の道を歩んでいるらしい。」



時報が対話
「おう」書く
の手段なら
者も読む者
は「互いに
も、投稿者
も編集者も
心を開けあ

◆カインを書いてくださいな。

カイン、僕の改心書くの？ ごめんね。まだ僕は十分カインしとりません。ではあなたには神の国はまだ遠い！何？ 私の言ったのはそのカインでなく、開心。だめ、僕の心は閉ざされているのにどうして書ける？ 書いてやった。(MT)

◆ブレネフ書記長逝き、ワレサ解放。

世界はどっちを目指して進んでいくのやら。日本政府の蛇とリは誰に？ 一寸先は闇か？ 教会の現状？ 日本人は心を失ったと聞いたが、どっこい小さくとも生きたキリスト共同体があちこちにいたとは比国からの訪問司祭のことば。(Y)

◆サモアの酋長ツイアビは「パラギ(白人)は丸い金属(時計)の『時間』に大騒ぎする。日の出から日没までの他に、時間があるはずがないの」と言う。私たちにサモアのような豊かな時間はないかもしれないが、心のゆとりをもてる時間も大切にしていきたいものである。

よいクリスマスと新年をお迎え下さい。(K)

本紙を福音宣教に役立たせるため、ご近所、お友だちにもお見せ下さい。